



信太の森ニュース

No. 33
2019年 6月30日

文責 田丸八郎



惣ヶ池湿地のスイレンとキシヨウの除去もかなりすすみました。

信太山丘陵が新緑を迎える頃、惣ヶ池湿地周辺では、ヤマツツジに続きモチツツジが彩りを添えます。

新緑を求めるのは人ばかりではありません。その新葉を餌とするガやチョウなどの幼虫が活発に動き出し、それらを餌とする小鳥たちがこれまた活発に動きだします。

留鳥のウグイスは2月下旬から丘陵のあちこちで囀っていますが、新緑が始まる頃からは、夏の渡り鳥、センダイムシクイやキビタキなどがやってきて、惣ヶ池湿地周辺の森はいつもより少し賑やかになってきます。

今シーズンやって来た夏鳥をみると、ここ数年毎年やってきているセンダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、ヒクイナ、ホトトギス。珍しいところでは過去の記録にもあるメボソムシク、コサメビタキが。過去の記録にないコマドリが確認されま

した。

これまで信太山丘陵で確認された野鳥は、好きやねん大阪シリーズ4に掲載された日本野鳥の会（1990年）の記録によれば114種あります。その後私たちが確認した17種を合わせると131種が信太山丘陵で確認されたこととなります。

楽しませてくれるのは野鳥ばかりではありません。刻々と移り変わる自然の中に生きものたちが面白い姿や「えっ！」と驚く生態を見せてくれる場面に出くわすこともあります。

こうした生きものたちをカメラに撮るのを楽しみに信太山丘陵・惣ヶ池湿地へ足が向くのですが、同じ思いでやってくるFANクラブ会員が5、6名はいます。そんな人たちが撮った生き物を今後はできるだけ紹介していきたいと思います。

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動

6月2日(日)午前中、公園協議会の総会が信太山駅近くの「人権文化センター」で開催されました。

今年度の総会では、開園に向けた運営体制の枠組みについて、これまで公園協議会は「企画運営会議」と「利用調整会議」という枠組みであったものを「利用調整会議」としていた枠組みを「保全活動ミーティング」と「事業・計画ミーティング」という枠組みに分けて協議していくことになりました。

新たな枠組みとなった

「保全活動ミーティング」では、

- 目標植生像の共有
- 維持増進のための管理手法の検討
- 管理活動の立案と実行等

をボランティアを含む活動参加者で協議していく。

「事業・計画ミーティング」については、ハード面として

- 公園施設の企画・設計
- 植生・土地利用ゾーニングなど

ソフト面としての

- 管理体制(開園前後)
- 財政
- 広報等

を信太の森FANクラブや大阪自然環境保全協会等共催・協力団体等で協議していく。

これまでの「利用調整会議」は一般の活動参加者も参加できたわけですが、これから具体化されるハード面、ソフト面についての協議はより専門性が必要なことからこのような体制になったものとおもわれます。

さて、公園協議会の4~6月の保全活動は、4月が西側広場の外来種アメリカオニアザミの駆除と竹林沿いの園路の草刈を行いました。5月は竹林整備と尾根筋の草地復活地の草刈を行いました。草地復活地ではコモウセンゴケが40株ほど一斉に開花していました。こ

のような一斉開花を見たのは初めてのことでした。また、竹林整備ではたくさんのタケノコを収穫。参加者に持ち帰って貰いました。

6月は午前中に今年度の総会を開催し、午後から保全活動をすることになっていましたが、現地での作業開始時に雨が降り作業は中止。雨上がりの後、園路の「階段づくり」をする現地を視察して終了しました。



4月の活動日：満開のヤマツツジの前で記念撮影

観察会。湿地の保全活動の時間変更

これまでFANクラブが毎月実施していた観察会と惣ヶ池湿地の保全活動の集合時間を4月から1時間遅くしました。

◎観察会は午前10時~12時

◎惣ヶ池湿地の保全活動は弁当を持参し、

午前10時~15時とし、午後からの活動には湿地内の観察時間も含めました。

実施して3ヶ月ですが、観察会に関しては一般参加者が17名(昨年同期:1名)と大幅に増加し、毎月二家族の参加があり、時間変更の効果が出ています。

観察会で4月の見どころは何と言っても満開のヤマツツジです。一昨年放火されたツツジの丘のヤマツツジも背丈が低いながらも紅



放火された後、復活しつつあるヤマツツジ

い花を開花するまでになりました。惣ヶ池湿地ではカマツカ、シハイスミレが見頃でした。

5月の観察会では、爬虫類に詳しい会員の上村さんが惣ヶ池の岸辺にいたシマヘビを捕まえ、参加者のみなさんにヘビの背中に触って貰い、そのサラサラとした感触を体験して貰いました。



シマヘビを触った感触は？サラサラやっ

5月下旬の植物ではコモウセンゴケやインモチソウがありますが、小さな白い提灯をずらりと並べたようなネジキ（ツツジ科）の花が惣ヶ池湿地で咲いていました。



提灯を並べたようなネジキの花

6月の観察会ではホトギスの鳴き声を聴くことができず、ハラビロトンボやモノサシトンボ、ニホンヒキガエルの子どもを観察し、参加した子どもたちには楽しんで貰いました。

鶴北小3年生を対象に環境教育実施

6月11日（火）鶴山台北小学校の3年生65名を対象に環境教育授業として信太山丘陵と惣ヶ池湿地を案内し、子ども達に自然の素晴らしさを実感して貰いました。

鶴山台北小学校3年生に対するこの取り組

みは今回で3回目となります。

参加した会員はカメラ担当を含めて14名二クラスを8班に分け、各班を2名で案内し、ドンダリの話やヤブジラミなどくつつき虫の仕組み、住宅地のすぐ近くに色々な生き物が棲む素晴らしい自然があることを説明しながら約1時間ばかり案内しました。



出発地の惣ヶ池公園に集まった子供たち

終了後、子どもたちの感想が聞けるようにとFANクラブが作成したアンケートを先生にお願いしていましたが、後日寄せられた子供たちの感想には、9割近くが信太山丘陵の自然は「自慢できる」と答え、ニホンアカガエルやトンボ、アケビやいろんな花が見れてよかったと感動し、今度お母さんや弟と一緒に行ってみたい。等々の感想が寄せられました。

信太山丘陵の小鳥たち（夏鳥）

惣ヶ池湿地を歩くと周囲の森から小鳥の声が聞こえてきます。春はウグイス、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、ホオジロなど常連さん。それらに混じって聞こえてくる小鳥を紹介します。

「チョチョビー」（鶴千代君：これ聴き成しと



センダイムシクイ



キビタキ

いいます) と鳴く春の渡り鳥でウグイスの仲間のセンダイムシクイ。「ピチュリ ピッピリリ ピッピリリ」と鳴き、顎から胸にかけて鮮黄色のキビタキは毎年やってきます。

ここ数年やってきているのがオオルリとサンコウチョウです。サンコウチョウは「月、日、星」と鳴くことから昔の人は「三光鳥」と名付けたようですが、私には「・・・ホイホイホイ」としか聞こえません。最初の部分「・・・」は「ツピヒ」とでも鳴くんでしょうか、私には後半の「ホイホイホイ」だけが



サンコウチョウ



コサメビタキの雛

サンコウチョウを特定できる鳴き声です。その姿を捕えるのは容易ではありません。

更に珍しい鳥では、過去に記録はあるものの約30年間確認記録が無いコサメビタキ

(写真) とメボソムシクイがあります。コサメビタキはどんな鳴き声なのか知りませんが、廣石さんがその幼鳥を撮影されました。

メボソムシクイはウグイスの仲間で、丘陵に隣接する団地内を散歩中に確認しました。

「リチョ リチョ リチョ」と涼やかな鳴き声は忘れられない思い出があります。昔日本アルプスに夏山登山をした折、広い谷間から聞こえてくるこの声に癒され、疲れが飛んだものでした。それだけに忘れられない小鳥です。

最後に今シーズンが初確認という小鳥がコマドリです。「ピッ リリリリー」という特徴のある鳴き声です。残念ながら新緑が邪魔をして姿を捉えることはできませんでした。

そろそろ夏鳥も山地へと移動していきます。来年はどんな鳥と出会えるか楽しみです。

惣ヶ池湿地の不思議な光景



一日目の様子



三日目の様子

この不思議な光景。15cm位のカナヘビとコガネグモです。カナヘビがコガネグモを食べようとしている風にも見えますが、実はコガネグモが自分より大きいカナヘビを捕まえたところです。コガネグモは2cm位の大型でした。カナヘビがコガネグモを食べに行き、逆にクモに捕まったという状況でした。

3日後には体液を吸われ、カナヘビはクモと同じくらいの大きさ(小さく)になっていました。コガネグモの牙?には生き物を麻痺させる武器(毒液)があるのかも知れませんね。

惣ヶ池湿地の看板設置と木道づくり

惣ヶ池湿地は来年3月で満20年になります。朽ち果てていた外周柵は3年前から大阪みどりのトラスト協会の助成を得て3年がかりで新設しましたが、倒れていた二つの看板も中身だけを取り出して掃除をし、新しく作り直して設置しました。

7月からはいよいよ木道づくりを始めます。どうぞ知恵と体力をお貸しください。



出来上がった新しい案内板